

2019年10月11日

各位

株式会社ジェネティックラボ

## 自己採取 HPV 検査に関する利尻町との契約締結について

トランスジェニックグループの株式会社ジェネティックラボ（代表取締役社長：伊藤勝彦、北海道札幌市）は、自己採取 HPV（ヒトパピローマウイルス）検査<sup>\*1</sup>に関しまして、昨年引き続き北海道利尻町と検査委受託契約を締結しましたのでお知らせいたします。

初期の子宮頸がん<sup>\*2</sup>には自覚症状がほとんどないため、早期に発見するためには検診を受けることが不可欠であるとされていますが、国内における子宮頸がん検査の受診率はなかなか上昇していません。とくに20歳代を中心とした若い年齢層の受診率は極めて低いのが現状です。この背景としては、「近隣に婦人科がない」「時間がなく病院で検診を受けられない」「気後れする」等様々な理由が考えられます。これに対して、自己採取 HPV 検査は自宅等で受検者本人が検体を採取して提出する方法であるため、多くの課題を解決し受診率を向上させるための現実的な対策の一つとして期待され、このたびの実施に至りました。また、この検査は子宮頸がんの原因である発がん性 HPV14 種を高感度に検出する検査方法を採用しています。

自己採取 HPV 検査の実施により、新たに検診を受ける習慣を持つ女性が増えることや、罹患の早期発見によって一人でも多くの女性が身体に負担の少ない適切な治療を受けられるようになることに貢献してまいりたいと考えております。

### 【契約概要】

検査項目： 自己採取 HPV 検査

対象： 利尻町に住民登録を有し、本年度末までに21歳から49歳になる女性で、過去5年間に利尻町が実施する子宮頸がん検診を受けたことのない方

契約期間： 令和2年3月末日まで

### 【用語解説】

<sup>\*1</sup>自己採取 HPV 検査 受検者が自分自身で採取した細胞の提出を受けて、子宮頸がんの原因となる発がん性 HPV への感染の有無を調べる検査。今回実施する検査法は14種類の発がん性 HPV への感染を調べるもので、医師が採取した細胞で行う HPV 検査と同等の感度・特異度を有することが確認されている。

<sup>\*2</sup>子宮頸がん 子宮頸部（子宮の入り口）に発生するがんのことで、年間で約1万人が罹患し、約3千人が死亡している。20～40歳代の若年層に増加しているのが特徴で、生涯で78人に1人の女性が罹患する。

### 【株式会社ジェネティックラボについて】

2000年、国立大学発ベンチャー第一号として設立。常勤の病理医が在籍し、病理診断技術と分子生物学関連技術を駆使したサービスを展開。個別化医療の実現に向け、バイオマーカーの探索・評価技術の開発やコンパニオン診断薬等、医療に直結する製品・サービスの開発を支援します。

お問い合わせ先

株式会社ジェネティックラボ 病理部営業課

〒060-0009 北海道札幌市中央区北9条西15丁目28-196 札幌 IT フロントビル 3F

E-MAIL: [selfhpbv@gene-lab.com](mailto:selfhpbv@gene-lab.com) <https://www.gene-lab.com/>